

質問

ステージ1の肺がんと診断され、手術を受けることになりました。どのような手術方法がありますか。

肺がんの手術



河北 直也
徳島大学病院
呼吸器外科講師

回答

肺がんの手術では、がんの部分だけでなく周囲の健康な肺組織も一緒に切除します。術式は部分切除、区域切除、肺葉切除の3種類があり、順に切除範囲が広くなります。肺は再生しないため、できるだけ小さな範囲でがんを取り除くことが理想とされてきました。しかし1995年の研究で、部分切除や区域切除は肺葉切除に比べて局所再発が3倍多いと報告され、それ以降は肺葉切除が標準的な術式となりました。

その後、CTの技術が進歩し、より小さな早期の肺がんが発見されるようになり、術式の選択肢も広がっています。特にすりガラス様陰影が主体のごく早期の肺がんでは、部分切除が選ばれる

早期は部分切除が可能



がん何でもクイズ

国が推奨するがん検診のうち、20歳からの受診が推奨されているがん検診は何でしょうか。

①大腸がん②子宮頸がん③乳がん

行こうよ！がん検診

ケースが増えてきました。さらに、2022年に国内で行われた大規模な臨床試験では「2cm以下の肺がんでは、肺葉切除より区域切除の方が全生存率が良好」という結果が示され、区域切除の適応も拡大しています。

ステージ1の肺がんといいても、進行度や特徴はさまざまです。腫瘍の場所や大きさ、患者の全身状態を考慮しながら、最も適した術式を選ぶ必要があります。

要があります。

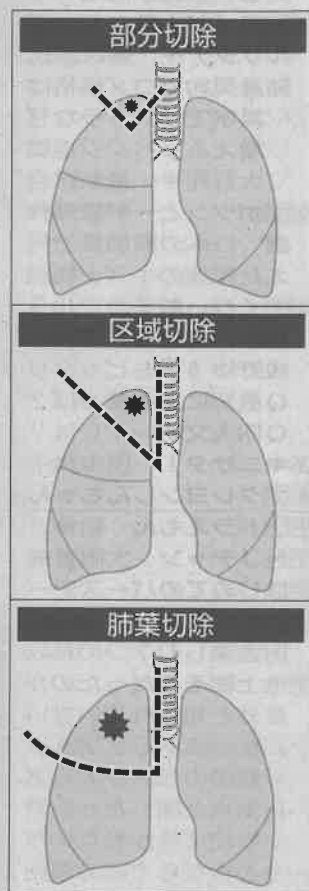
手術の方法も大きく進化しています。かつては胸を大きく開く開胸手術が主流でしたが、現在では小さな傷で済む胸腔鏡下手術が一般的です。胸腔鏡下手術は体への負担が少なく、回復も早いという利点があります。

近年では、ロボット支援手術の導入も進んでおり、より精密な操作が可能になりました。ロボ

ット支援手術は、従来の胸腔鏡下手術よりも手の震えが抑えられ、細かい動きが可能になるため、特に複雑な部位の手術に有効とされています。

徳島大学病院では、県内で最も多くの呼吸器外科専門医が在籍し、胸腔鏡下手術やロボット支援手術の認定医も多数います。全ての術式に対応できる体制が整っており、複数の専門医がカンファレンスで治療方針を検討し、患者にとって最適な方法を提案しています。肺がん治療について不安がある場合は、いつでも相談してください。

進行度で最適な術式選択



がんに関する質問は
徳島がん対策センター
電話 088 (634) 6442
(平日午前8時半から午後5時まで) へ。

